

CAVOK V 2017年航海日誌 NO4

(9月1日(金) Salamis ~ 10月14日(金) Kalekoy~Kemer)

松崎義邦氏メール(10月23日)

皆様に

8月下旬アテネ近郊の居心地の良かったセラミスのマリーナでのんびり過ごした後、一時帰国していた悦子が菅原さんとセラミスに戻りエーゲ海への航海を9月よりスタートしました。

一緒にサラムスで滞在していた石坂さんの艇”無事是貴人“と1週間ほどランデブー航海でミコノス島まで一緒しました。その後パロス島からは友人の豪華な大型ヨットにアテネ迄乗せて頂きゴージャスな別世界のクルージングも味わうことが出来ました。

幸いにサラムスを出港してからエーゲ海の強敵メルテメ(北風の強風)にも遭わず順調な航海を続ける事が出来ラッキーでした。エーゲ海をクルージングするのは今回で4回目になりますが、魅力のある島々が近くに点在し又良好な泊地が沢山ありクルージングを楽しむには絶好な海域です。そして夏のエーゲ海は毎日雲一つない青空が続きます。ただ一つ難点は夏の強風メルテメです。メルテメが吹くと風待ちになります。

今回のお仲間ですが、9月には35年ほど前の外洋レースでライバルだった菅原さん、やはり30年ほど前、当時日本を代表するレース艇“ゼロ”でお世話になった石坂さん、10月には大学の同窓生でANA同期入社の太田さん、同じゼミだった立石さんと古き良き友人達でした。

10月からトルコに入りました。トルコの南岸は錨泊に絶好な風光明媚な入り江やレストランの棧橋、設備の整ったマリーナがあります。そして良いお天気はエーゲ海と一緒にですがここはメルテメが吹きません。クルージングに持って来いの最高のスポットを満喫しました。

10月14日に越冬地ケメルに無事入港して無事今年の航海も終了しました。

お陰様で航海8年目の今年も安全で楽しい航海が出来ましたことを御礼申し上げます。

ケメルにて

松崎義邦

添付写真

1. トリマラン 石坂艇 ”無事是貴人“

2. 昔のヨット仲間達と ミコノス島にて
3. パロス島ナウサの錨泊地
4. インディゴ号での食事
5. サントリーニ島フィラよりインディゴ号を望む
6. ギリシャの漁船 レロス島にて
7. トルコ シフトリックのレストラン栈橋
8. カレコイのレストラン栈橋での CAVOK5
9. ケコバロード ケコバ島と本土との海峡
10. 10月中旬のケメルの海水浴場

2017年 CAVOKV 航海日誌(4)

9月1日(金) Salamis 快晴 順風

昨晚遅かったので朝ゆっくり寝る。9時前に悦子に起こされ久しぶりに悦子エッグベネディクトの朝食を昨日到着した菅原さんと3人で頂く。

午前中に魚市場に行く。種類が少ないが新鮮な魚が並んでいる。タコ、エビ、ムール貝を買う。

お昼は定番のラーメンにビールだった。

明日土曜日にポロス島に行く予定だ。土、日はオフィスが閉まるので今日中にマリナーの繋留料の清算をする。10日間で150€、一日15€だ。電気、水道、洗濯機利用してのこの値段だった。

夕食は石坂さん、邦子さんを招待して CAVOK5 で食べる。

菅原さんが持ってきてくれた日本酒、焼酎、だだちゃ豆、水ナスのみそ漬け、しば漬けを中心にして、だだちゃ豆でビールを、刺身用に茹でたタコで日本酒を、エビはオープン焼き、ムール貝はワイン蒸をしてワインを楽しむ。

そしてご飯を水ナス、柴漬け、ほぐし鮭で頂く。皆さんと大変楽しい晚餐会を過ごした。

9月2日(土) Salamis~Poros (30NM) 快晴、微風

石坂さんの“無事是貴人”とポロス島に向かう。“無事是貴人”の出港の後、09:50に舳いを解く。

昨日迄強風が吹いていたが今日は風が弱い。“無事是貴人”と併走しながら機帆走する。

お昼に狐うどんを頂く。日中陸にいと暑いヨットの上で日陰にいと寒いくらいになって心地よい。

15:20に前回ポロス島に来た時と同じ場所に舳をとる。

“無事是貴人”はポンツーンに横付けしたがコーストガードが来て槍付けするよう指示

され、やり直して槍付けに変えようとして船首よりアンカーを打つ。生憎と打ったアンカーが効かず打ち直しのため揚げようとしたらアンカーが底の何かに引っかかり揚がらなくなってしまった。同時にウインドラスが動かなくなってしまった。私がウインドラスに負荷をかけすぎたためウインドラスのモーターが熱を持ってオーバーロードでセフティー回路が働いたようだ。

色々石坂さんが調べたがセフティー回路のスイッチが分からず、今日は諦めることにしてそのまま槍付けにした。幸いアンカーは底の何かにしっかり絡んでいるようだったのでそのままにして明日の作業にすることにした。

結構時間が掛かり皆さんお疲れ様になったので夕食はボールを交えて 6 人でタベルナに行く。

グreekサラダ、ビートルートのヨーグルトがけ、ズッキニーボール、ひよこ豆のペースト、チーズのさがまき、ザジキそしてラムとポークの盛り合わせを白、赤ワインで食べる。

それぞれが結構おいしかった。



(トリマラン 石坂艇 ”無事是貴人“)

9月3日(日) Poros 快晴、微風

“無事是貴人”のウインドラスの修理にメカニックが来るのが11時頃だという事だった。

次の目的地が50NM先なので11時過ぎの出発では遅くなるのもう一日ここに停まることにした。一日ゆっくり出来る日が出来て私は嬉しい。

ウインドラスの修理は直ぐ終わり、今度はダイバーに頼んで底の何かに引っかかっているアンカーを外してもらい、打ち直す。

午後はCAVOK5航海日誌の整理をしてメールする。

ゆっくり出来る様で忙しい一日になる。本をのんびり読む時間が無い。

夕方のゴールデンタイムにだだちゃ豆でビールを飲んだ後、夕食はCAVOK5で邦子さんが持ってきてくれたシュウマイと鶏もも肉のロースト、ペッパーのタパス、ジャガイモとタコのガーリックソテー、ラタトゥイユ、ムール貝のリゾットを石坂さん、邦子さん、Poleさんと皆さんで頂く。最後に邦子さんから頂いたデザートワイン的な白ワインでしめた。

9月4日（月）Poros~Kythnos（Loutra）(51NM) 快晴 順風

“無事是貴人”とCAVOK5と一緒にキソノス島のルートラを目指すことにする。

朝7時過ぎにアンカーを揚げるが、後から来てアンカーを打った横の艇のアンカーチェーンが我々のチェーンの上に乗っていて彼らのチェーンと我々のアンカーが絡んで揚がらない。仕方なくその艇のアンカーチェーンを伸ばしてもらい我々のアンカーを彼らのチェーンと共に引き上げチェーンを外す。結果07:40の出港になる。

北からの良い横風を受けて快調にセーリングでキソノスに向かう昼過ぎまで4時間ほど15~20ノットの風を受け艇速も6~7ノットの平均速度で滑る。

お昼にオムレツとムール貝のリゾットを頂くころ風が落ちてしまい、機帆走に移る。

“無事是貴人”とVHFで呼ぶが応答なし。メールで08:20に出港したのが分かった。

行き交うヨットが多い。我々がルートラの港に近づいた時には3艇併走になる。

我々は2艇に先に行かせて最後に行く。我さきは嫌だ。小さなマリーナは混んでいたが空いているところがありアンカーを打って船尾着けする。このマリーナのスタッフも親切だった。

後から来ている“無事是貴人”の舫い場所を確保する。このタイプのマリーナは予約をとれないので先着順になる。

ルートラは海中温泉がある。早速悦子と入浴に行く。

程よい温度の露天風呂で気持ちよくかなり長い間入って体を休めた。

夕食は海辺のレストランで頂いた。色々頼んだがフィッシュスープが美味しかった。

9月5日（火）Kythnos~Tinos(35NM) 快晴 微風

折角ここは温泉があるので、朝食前に泳いでから海水温泉に浸かる。出来れば、ゆっくりともう2,3泊したいところだ。

“無事是貴人”と今日も一緒にテイノスに向け出港することにする。10時に舫を解きアンカーを揚げる。昨日は若干の波があったが今日は静かな海面だが風が弱い。

機帆走で6ノットプラス出る。エンジンの回転は抑えて燃費の良い1800回転だ。

お昼にオムレツと冷ソーメンをビールで頂く。海でのソーメンはいつも美味しい。

16時過ぎにテイノスの岸壁にアンカー打って船尾着けしようとしたらピーピーと笛でマリーナのスタッフが注意喚起してくれ、別の岸壁に横着けするよう指示してくれる。その後“無事是貴人”が入港してきて我々の後ろに横着けする。

水道は遠いところから専属のホースで使えるが一回2.45€の使用料だった。夕方集金人が来て集金するが一日電気込で15€だった。

港の水が綺麗だったので潜ってペラの掃除をする。石坂さんは昨日に続き船底の貝落としをしていた。

その後どんどん艇が入港して来て岸壁はほぼ満杯になり他の場所に行っている艇もいた。

夕食は石坂グループとCAVOK5と一緒にすることにした。

邦子さんが串カツとキャベツサラダを差し入れしてくれる。イチジクの胡麻ソース、ポテトサラダ、豚の肩ロースのニンニク醤油味をご飯で頂く。今日は白ワインだった。

9月6日（水）Tinos 快晴 強風

昨晚からの強い風が今朝も吹いている。もう一日ここに滞在してレンタカーで島内観光をすることにする。菅原さんに運転してもらうことにして石坂さん、邦子さんと一緒に行く。

5人なので少し大きめのジープを80€で一日借りる。

最初に修道院に行く。尼修道院で門から入ると一つの修道僧の町が出来ている。かつては100人ほどの尼さんがいたそうだが現在は30人ほどだそう。白い壁と大理石の石畳のきれいな端正な街並みだった。エクソンヴルグという岩山を見ながら所どころ点在する村を通過して行く。この岩山には先史時代から人が住んでいた。その後古代からビザンチン時代、ベネチア時代そしてトルコの支配と続いた歴史を持っている。

山から北側に海岸をドライブする。海水浴場を見渡せるお店でコーヒブレイクする。

お昼はレンタカー屋さんで教わった伝統的ギリシャ料理を食べさせる山中のタベルナで食べる。伝統的ギリシャサラダ、チーズのサガラキ、レバーのグリル、ポークステーキ、ベーコングリルを食べるが中々シンプルな味付けながら美味しかった。

その後南側の小さな港町を寄ったりしながら山の中腹にある道路から海岸線を見ながら港に戻る。港に戻ってからアイコンが発掘され、このアイコンを安置してあると云うエヴァンゲリストリア教会に寄る。ここから海を一望できる。海からの長い坂には這って歩きたい信者の為に道路わきに絨毯を敷き詰めた特別のコースがある。大理石を使った素晴らしい教会だった。

今日は石坂艇と我が艇と別々に夕食を食べることにした。

お昼がヘビーだったのと連日のご馳走だったので夕食には、菅原さんはラーメン、悦子と私はウニ、柴漬け、ほぐし鮭とご飯で簡単に済みます。

食後石坂さんも来て明日の予定について話す。結局明日はミコノス島に行くことにする。

9月7日(木) Tinos~Mikonos(10NM) 快晴 微風

目と鼻の先のミコノス島に行くので朝のんびりする。今日は菅原さんが“無事是貴人”に乗り Paul が CAVOK5 に乗り交互乗艇をする。菅原さんがトリマランを楽しむ。

“無事是貴人”の出港後 09:40 に舫いを解く、暫く行くと斜め後ろからの良い風が吹いてきたのでジブを揚げず直接ジェネンカーを揚げるが揚げたと同時に風が無くなってしまふ。

諦める。

ミコノス島に近づくと大型クルーズシップが 3 隻停泊していた。新しいマリーナに入り繋留しようとするスタッフが出来場所を指定してくれた。レイドラインがあり槍着けする。その後来る“無事是貴人”のバースを確保しようとするともう無理だとスタッフに言われてしまう。と言われても困るので Paul が何とか繋留場所を探す。結局堤防の外になる埠頭にアンカー打っての槍着けの許可をもらいほっとする。

そうこうしているうちに“無事是貴人”が入って来て槍着けする。

“無地是貴人”は全長 13m、幅 8.5m のトリマランでペラがセンターにあるだけで、バウラスターがあるが小回りが利かず且つ風に流れやすく出入りの操船が非常に難しい。石坂さんも出入りには大分苦労している。カタマランだと両サイドにペラがあるので操船しやすいのだが。

お昼をペタで包んだ野菜ハムサンドを頂いた後、水上バスでオールドポートに行く。

真っ青な空の中に真っ白な壁の家々が立ち並びエーゲ海でも屈指な景観を持つ町だ。

通路は狭く迷路のようだ。その中におしゃれなお店が軒を並べている。我々も歩きながらショッピングしたり、お茶をのんだりして楽しんだ。

帰艇してから洗濯をする。

夕食は外食することにして 6 人でニューマリーナにあるタベルナに行く。

島のサラダ、チーズののったズキーニとマッシュルーム、ラムシチュー、ヒレステーキ、T ボーンステーキの肉中心の料理を食べるが、ギリシャよりイタリアに似た味付けと肉の焼き具合で美味しく食べた。フルーツ、ケーキ、コーヒーをデザートに、そして白、赤ワインを大分飲んで 230€ だった。

石坂艇との約 2 週間一緒したが今日が最後の晩餐会となった。彼らはトルコに向かい我々はキクラデス諸島をクルーズする予定だ。

9月8日(金) Mikonos 快晴 微風

朝 7 時過ぎに“無事是貴人”は出港して行った。

昨日ハーバーマスターに 1 泊だけだと言われて翌朝確認に来いと言われていたので確認に行くともう一泊 OK との事で予定通り泊まることにした。

菅原さんは観光船でデロス島観光に出かける。

悦子と二人でお昼はざるそばを食べる。その後、港を見渡せるバーで WIFI を使う。

一日ゆっくり過ごせる日はプレゼントと思っている。バーから戻ると菅原さんが帰艇してお疲れか昼寝をしていた。私はマリーナの隣にある小さな海水浴場で泳ぎシャワーを浴びる。

夕暮れにおつまみを摘みながらビールを飲む。いつもながら素敵な時間だ。

そのまま夕食になる。メロンと生ハム、オニオンとトマトのサラダ、ジャガイモと玉ねぎの入ったチキンシチューを白ワインで頂く。

食事が終わった頃スーパーマーケットであった女性の Eva さんが寄ってくる。一緒にお酒を飲みながら色々お話をする。彼女は 23 歳で、大学で絵を勉強しているそう。そしてアルバイトで夏の間チャーターヨットのクルーをしている。日本にも来たことがありかなりの日本語が喋れる。

中々シャープな女性で楽しいひと時を過ごす。お別れしたときは 12 時過ぎだった。



(昔のヨット仲間達と ミコノス島にて)

9 月 9 日 (土) Mikonos~Paros(20NM) 快晴 微風

朝電気が切れた。どうも他の人が使った後の残りの電気を使っていたようで使い切ったようだ。早速オフィッスに行き 10€ でチップを購入する。

10時過ぎに昨晚来てくれた Eva がお別れの挨拶に来てくれる。

水も満タンにして 10:30 に舳いを解く。心配していたメルテメも当分吹かないようで静かな海面を機走する。

お昼にざるそばを頂く。美味しいそばだ。

ナウサの湾に入りマリーナの対岸になる錨泊地 Ioannou にアンカーを 14:15 に打つ。水深 7m のところに打ったが底が砂地でターコイズブルーのきれいな海だ。メルテメにも強い錨泊地だ。10 艇ほど錨泊していた。早速悦子は泳いでアンカーの効きを海面から見に行く。約 35m チェーンを伸ばす。

静かな錨泊地で泳いだり本を読んだりのんびり過ごす。夕暮れ時からいつものようにハッピーアワーでメタックス（ギリシャのブランデー）をレモンとソーダで割って飲む。冷蔵庫の整理で色々なアピタイザーが出てくる。夕食はグリーンペッパーのペタチーズのサラダ、マッシュルームアヒージョ、マッシュルームとチーズのグラタンを白ワインで頂く。海の上では冷えた白ワインが多くなる。

夜の風は涼しく半袖では寒い季節になってきた。

遠くの海岸の音楽が少しうるさかったが海面は穏やかでぐっすり寝る。



(パロス島ナウサの錨泊地)

9月10日（日）Paros（Ioannou）～Paros(Naoussa)（2 NM）快晴 微風

朝ゆっくり起きる。朝食後泳いでから 11 時にアンカーを揚げてパロスのマリーナに向かう。2NM 弱の距離なので 30 分弱で着く。ここは 20 艇ほどでいっぱいになるが数隻分空いていたので都合の良い場所に槍着けする。

ここで約 2 週間停泊予定をしている。

早速港の周りを歩いてからタベルナに入りビールで喉を潤おす。日中は暑い。

お昼は冷やし稲庭うどんを頂く。昨日はそばであったが麺類のお昼は海にピッタリだ。

午後はお昼寝したり泳いだり散歩したり各自勝手に過ごす。

夕食は前回も行ったことのあるシーフードレストランに行く。9 月半ばになってもお客さんでいっぱいだ。

店員さんが覚えていてくれて直ぐ席をとってくれた。

昼間鯖の日干しを見たので食べたいなと思っていた。メニューを見ると Sun dry mackerel とあるので注文したが既に品切れとの事だった。代わりにグリルド・サーディンにして、その他にムール貝のワイン蒸とシーフードリゾットを食べる。グリルド・サーディンはちゃんと二枚に開いて上手に焼いてあり美味しかった。ムール貝も未だ旬の季節で身がプチプチでこれまたグッドだった。

小さな港町に花開いた賑やかなレストラン街を後に艇に戻る。

9 月 11 日 (月) Paros 快晴 微風

朝起きると菅原さんはお散歩に悦子はパンを買ってきていた。私は惰眠をむさぼった。

朝食後買い物がてらレンタカー屋に寄る。明日菅原さんが下船してパリ、カンヌに寄って帰国するので空港までの足としてレンタカーを借りることにした。今借りると 24 時間をオーバーするので後程に借りようと思っていたが交渉すると 3 時間ぐらいのオーバーは OK との事だったので直ぐ借りた。ちいさな車で 45€ だった。

ナウサにある Moraitis のワイナリーに行きワインを 8 本仕入れる。そして早速島内観光に出かける。中心街のパリキア寄ってヴェネチア人によって建造されたフランクの砦に行く。紀元前 530 年に建てられた神殿跡に建てられている。その時の石柱を一部使いそのまま石柱の輪切りが見える壁になっている。複雑な歴史の変遷が見て取れる。

その後ギリシャで最も古い教会の一つのパナギア・エカトンタビリニアニ教会に寄る。

石を組み合わせた見事な建物だ。

お昼にペタ・ギロスを食べ、私は SIM カードを買いに WIND のショップに寄る。

その後昔の島の中心であったレフケス村に寄ってからゴールデン・ビーチの海辺に寄りお茶を飲んで戻る。広々とした気持ち良いビーチだった。

今晚は菅原さんとの最後の晩餐会になる。

ハム三種とメロン、トロネギのアヒージョ、イチジクとチーズで Moraitis の白ワインを飲む。夕食はドライカレーを頂く。最後にグラッパ代わりに焼酎を飲みながら最後に夜長

を楽しんだ。

9月12日（火）Paros 快晴 南西の強風

今日は菅原さんが帰る日だ。朝食後 9:30 に出発する。約 30 分で空港に着く。出発が 11:45 なので大分早く着いた。コーヒーを飲みながらおしゃべりした後艇に戻る。菅原さんは今回で 2 回目の来艇だ。彼は自分でバルセロナから日本までカタマランで来た経験のあるベテランだ。そして今から 30 年以上前、NORC のレースでお互いに競争した仲でもある。

色々と艇の話をしたり、セーリングの話をしたり楽しい時間を過ごさせて頂いた。

これからアテネ、パリを經由してカンヌ迄行きカンヌボートショーを見てから帰国との事だった。アテネからエアーフランスを使う予定だが、生憎とエアーフランスが 12 日客室乗務員のストライキという事で便が乱れるのが心配になる。

艇に戻ってから車の使えるうちにとスーパーマーケットに買い物に行く。

お昼にジャージャー麺を頂く。暑い時の辛さが美味しいしさを誘った。

何時もの様に泳いだ後シャワーを浴びて、モロキュー、タラモ、ネクタリンと生ハムを白ワインで頂いてから、昨日の残りのドライカレーを静かな艇の上で頂く。

9月13日（水）Paros 快晴 微風

久しぶりに二人だけになる。ゆっくり起きて朝食後悦子と WIFI を使いにタベルナに行く。お昼に冷やし稲庭うどんを頂いた後、洗濯物をランドリーに持って行く。重さでなく中身を分けて 2 ポーションになり 28€取られる。

足がなく不便だったのでレンタルバイクを借りる。湾の反対側の海水浴場まで行ってみるが途中蜂に足の指をさされてしまう。

4 月にクレタ島に来て以来整髪に行っていなかったもので前も行ったことのある美容院で整髪してもらう。

相変わらず港では毎日艇が出入りしている。今週末にお祭りがあれば場合は 16 日一日ほど港から出てもらうかもしれないとマリーナのスタッフに云われる。16 日土曜日から知り合いのクルーザーシップに 1 週間ほど乗せてもらい艇を置いておきたいので場合によっては困る。

何時もの様に夕方泳いでシャワーを浴びてからハッピーアワーになる。

前菜にハム、サラミ、雲丹と胡瓜、みそと胡瓜、チコリとタラモで白ワインを飲む。

夕食は鶏鍋で菅原さんのお土産の日本酒で頂く。段々日没も早くなり 8 時には暗くなるようになった。

9月14日（木）Paros 快晴 順風

刺された足がかゆくて良く寝むれなかった。足も少し腫れている。蜂に刺された後処置

をしなかったのがいけなかったようだ。

夜寝むれなかったせいでお昼近くまで寝てしまう。朝食・昼食をタベルナで食べる。

ここのママさんが素敵なおばあちゃんだったので一緒に写真を撮らせてもらおう。若いころさぞかし美人だったと思う。

午後はデッキ洗いをして、トイレのポンプが固くなっていたので部品の交換をする。その後洗濯物をバイクで取りに行き、帰りに近くの海水浴を見に行く。水が綺麗で砂浜の良いい海水用場が沢山ある。

隣に英国人男 7 人の艇が入ってくる。ほぼ 60 歳以上の方々で何かの仲間のようだ。夕食時同じユニフォームで出てきて 6 人は背中にクルーと書いてあり 1 人だけキャプテンと書いてありユーモラスだったので写真を撮らせてもらった。

今日も泳いでシャワーだ。

夕暮れに生ハム、サラミ、トロネギのアヒージョで一杯飲んだ後夕食にサラダ、豚カツをご飯で頂く。そのままコックピットで寝てしまった。

9 月 15 日（金）Paros 快晴 微風

ここのところ風も強くなく青空を満喫している。

午前中諸々の作業を済ます。お昼にチキンリゾットを頂いて少々転寝をしてからレンタカーを借りに行く。今日パロスに着くイラストレーターの高橋唯美さんと百合子さんを空港までレンタカーで迎えに行く。こちらでは良くあることだがエアコンが効かなかった。

昼過ぎの便で到着する。高橋唯美さんは船のイラストで有名な方だが初対面と思えない程親しさを感じた。百合子さんも飛行機の疲れも見せず元気に降りてきた。とっても感じのいい素敵な女性で数年来のお付き合いであったように感じた。

パリキアのホテルで彼らの荷物を置いてからそのままナウサに来て CAVOK5 で夕暮れまで話しが弾む。藤木さんのインディゴが AIS の画面に出る。まもなく到着だ。

キャプテンの Steve に電話してアンカーの場所の確認と港で会う約束をする。

7 時過ぎに我々は港のレストランに夕食に行く。このレストランは高橋さんが 5 月に来たことのあるレストランで偶然に驚く。

Steve も港にテンダーで来たので初対面の挨拶をする。夕食に誘ったが船でやることがあるという事で遠慮した。中々感時のいいキャプテンだった。

我々は夕食にズッキニーボール、チーズ・サガナキ、グリルドサーディン、ムール貝のワイン蒸、サバの干物、シーフードリゾットを食べる。白ワインと共に美味しく頂く。

高橋さんと百合子さんはタクシーでパリキアのホテルに戻る。高橋さんにすっかりご馳走になってしまった。明日からのインディゴでのクルージングが楽しみになった。

9 月 16 日（土）Paros 快晴 微風

ナウサでオールドボートのレガッタがあり場合によっては一日外で錨泊してもらうこと

になるかもしれないと言われていたが幸いに我々の繫留場所の艇は移動しないで済んだ。

反対側の岸よりの岸壁だけオールドボートの為に他艇を繫留させなかった。

10 時に高橋さんを迎えにパリキアに行く。マリーナに着いてから荷物をインディゴに乗せるためインディゴからテンダーで来てもらい荷物だけ運んでもらい、我々はモレイティスのワイナリーに行く。高橋さんはお土産用に、私たちは艇で飲むようにテストイングしてお気に入りを買う。高くて一本 20€一寸だった。

お昼にお肉を食べようという事で前回イタリア人のアントニオと一緒に行って美味しかったタベルナに行く。おかみさんが覚えてくれ歓待してくれる。シーズンサラダ、ラムチョップ、スタッフドベジタブルを食べる。

きれいな街で女性たちはショッピングを楽しみ 4 時ごろインディゴからテンダーで来てもらい高橋さん、百合子さん、悦子はインディゴに行く。

私は艇に戻り 1 週間ほど艇を空けるので点検してから空港に友人のインディゴのオーナー夫妻を迎えに行く。

17:45 定刻にお元気な姿で降りてきた。再会を祝す。

マリーナに着いてレンタカーを返してから迎えのテンダーでインディゴに乗船する。

素晴らしく美しい船だ。超豪華で内装は一流ホテル以上だ。初めて乗る豪華ボートに驚嘆する。

この船にはキャプテン、クルー3人、コックと 5 人乗って居る。部屋に入るとこれまた豪華だ。

コックさんの作るお料理も美味しく、野菜サラダとフェタチーズ、白身の魚のフライ、チキングリルいずれも味付けがギリシャ料理と違って微妙な味付けで我々の口にピッタリあい、ドライの赤ワインで美味しく頂いた。

豪華の部屋の大きなベッドでゆっくり寝る。

9 月 17 日 (日) Paros~Schoinousa(30NM)快晴 微風

朝 CAVOK5 に薬を忘れたのでインディゴのクルーのジョンにテンダーを出してもらい取りに行く。

素敵なお朝食をインディゴで頂いた後 9:20 に錨を揚げてシュケノウサ島の入り江に向かう。インディゴは鋼鉄製の 270 トンあるクルージングシップで豪華なクルージングを楽しむことになる。

30NM の距離を 3 時間で航海して 12:30 にシュケノウサ島の南の湾にアンカーを打つ。13m の水深に 75m チェーンを伸ばしていた。夜は 90m にしていた。

ゴージャスなお昼をご馳走になり、一休みしてから泳ぐ。地中海の海は魚介類や海草は少ないが水が綺麗で気持ち良い。

夕方 6 時よりハッピーアワーが始まりこれまた豪華な夕食を白、赤ワインでデッキの食卓でご馳走になる。素晴らしい晩餐会だ。

食後新月で月明りはなく、入り江の周りには民家もほとんどなく 2 艇ほどアンカーリングしている停泊灯の明かりだけで満天星だらけだ。天の川もしっかりと見える。屋上のデッキで見る星空に引き込まれそうだった。

星を見ているうちに転寝をしてしまう。



(インディゴ号での食事)

9 月 18 日（月）Scoinousa~Amorgos(16 NM) 快晴 順風

今日もフルーツを中心にした素敵な朝食をご馳走になる。コックのトニーさんはヒスパニック系の女性だが煮込み方が上手でその他の料理も味付けに手が込んでいてとっても美味しく作ってくれる。

09:30 にアンカーを揚げてアマルゴス島に向かう。今日も快晴の順風で気持ち良い航海になる。16 NM の短い航路だが周りに島々が良く見えエーゲ海らしい景色を堪能する。

11:30 にアモルゴスのカタポラの奥にアンカーを打つ。早速テnderで上陸して予約してあったレンタカーで島の南側の絶壁の岸壁の中腹にある修道院に行く。暑い中全員 6 名階段の道を登る。厳しい環境の中にある修道院だが見晴らしは抜群に壮大で美しかった。

その後岸壁の下にある色々な青の輝きを見せてくれるアンナ海岸を覗く。何回きても素敵なおところだ。

お昼にホラの町でギリシャ料理を藤木さんにご馳走になる。何から何まで藤木さんにお

世話して頂き恐縮だ。

昼食後島の西にあるカロタリリサの入り江に行く。途中難破船が横たわっている入り江が見えた。映画グランブルーのロケ地になった処だそう。

入り江は遠浅で低い丘に囲まれ素敵な泊地だ。一昨年入り江と島の間を通り抜けた処だった。

時間も遅くなったので港に戻ると丁度増田さんの“うめぼし”が檣付けをしようとしていた。彼はシングルハンドなので着岸が大変だ。手伝う。

インディゴからテンダーが来てくれる。オーナーが増田さんを夕食に招待しいたらと声かけしてくれたので増田さんを誘いに行く。

増田さんも加わり 18 時からのアペリテフから始まり夕食を頂く。メインはラムとポークの煮込みだったがサラダ、レモンピラフ等々今晚も豪華なお食事を堪能する。

増田さんはクレタ島からサントリーニ島に寄ったがマリーナがいっぱいで入れずイオス島に入り今日アモルゴスに着いたそう。彼とはメールでやり取りはしていた。

船長のスティーブは岸の近い良いところにアンカーを打ってくれたので夜の港の景色も楽しめた。

9 月 19 日（火）Amorgos～Santorini(38NM) 快晴 微風



(サントリーニ島フィラよりインディゴ号を望む)

何時もの様に 8 時にゴージャスな朝食をご馳走になる。

9 時過ぎにアンカーを揚げるが V 字型に二つアンカーを打っていたのが風の振れで艇が回ったので交差してしまっていた。

見ていると片一方のチェーンを緩めて片側を先に揚げてねじれを上手に解いた。

若干のうねりがあったが順調にサントリーニ島の湾に入り藤木さんを除いて 5 人テンドーでフィラの波止場に送ってもらう。

祐巳子、唯美さん、百合子さんと悦子はロバで坂を上がる。私はケーブルにした。

フィラの町は相変わらず沢山の観光客で賑わっていた。ショッピングをしてきれいな景色を見晴らしの良いお店でお茶を飲んでから波止場にケーブルで戻る。

インディゴは大きなブイに舫っていた。

艇に戻ってからシャワーを浴びてアピタイザーをご馳走になり夕方 7 時から今晚のトニーさんが作ってくれる豪華な夕食を頂く。ビーフの煮込みが特に美味しかった。

食後オンザロックを飲みながら団らんして過ごす。インディゴの 4 階屋上から見上げてみるフィラの街の明かりが微妙に色とりどりで天空の町のように美しい夜景だった。

9 月 20 日 (水) Santorini~Milos (62NM) 快晴 強風

寝ている内にインディゴが動き出す。風が強くなるので早い出港にしたそう。出港時間 6:30 だった。

案の定波が若干ありピッチングがある。この艇はスタビライザーがついているので横揺れは制御できるがピッチングは制御出来ない。

お昼に近づいてからコースをミロス島の近くの Polyaigos 島のブランケットに入る。うねるも無くなり静かな海面になりお昼を頂く。

その後クリマのきれいな漁村を遠くに見ながらミロス島の入り江に入り南西風を防ぐように湾の南西側にアンカーを打つ。

風が強いので泳ぐのは諦めた。

夕暮れにはビールで喉を潤おしてから 3 つ星レストラン以上のトニーが作る料理を赤ワインで頂く。素晴らしい味付けをしてくれる。

お腹いっぱいになり 10 時過ぎにはベッドに横になった。

9 月 21 日 (木) Milos 快晴 強風

朝艇が揺れる。昨日の前線の通過で風が北に変わったせいだ。船長のステープは艇を今度は艇の北側の風をブロックしている側に移す。

静かな海面になる。其処に移ってから朝食を頂く。

食後テンドーで上陸してから、クルーが手配してくれていたレンタカーで島内観光に出かける。最初にカラフルの番屋が並ぶクルマの漁村にそこでお茶を飲んでから、白い岩

と海の青とのコントラストが美しいサラキニコその後マンドラキアの美しい小さな漁港をみてアダマスに戻りギロスの昼食をご馳走になる。

艇に戻ってからインディゴの昔の写真とオーナーが購入してからボストンまでの航海の写真や今回の写真を皆さんで大きな画面に映して楽しんだ。

夕食後ゆっくりと音楽を聴きながら楽しんで夜更け 12 時過ぎにベッドに入る。

9 月 22 日（金）Milos~Kythnos（42NM）晴れ 順風

今日はキスノス迄行く予定だが午前中波が高いので昼頃出港を予定する。

朝食後テンドーで島に上がり男性陣はマリーナの艇を見て回り、女性陣は買い物をして艇に戻る。

予定通り 11：30 にアンカーを揚げる。波の予報は 1.2M だったが意外と静かで大きな揺れもなくクルージングする。

お昼もテーブルでハンバーガーをメインにフルーツジュース、野菜サラダ、パスタをご馳走になる。美味しいバーガーだった。

16 時にキスノス島の西側の錨泊地の Apokriosi にアンカーを打つ。西以外は周りをしっかり囲まれた良い泊地だ。湾の反対側の 2009 年にジェラルドの艇でアンカーを打った Fikiadha は 10 艇程錨泊していたので向かい側の泊地に変えた。

今晚の夕食はいつもコックのトニーさんにお世話になっているので我々が作ることにした。女性陣はお寿司を私は天ぷらを揚げることになった。

お寿司と天ぷらの夕食になるが天ぷらの食材が良くなり今一つだった。こちらでの天ぷらは良い食材が見つからないので難しい。

テーブルの中央にオーナーが座りその周りに船長はじめクルーが囲みとっても素敵な感じだった。

9 月 23 日（土）Kythnos~Pireas（52NM）快晴 順風

09：00 朝食が終わって直ぐアンカーを揚げる。

今日は INDIGO での最終レグになる。海面も穏やかになりスムーズな航海だ。

途中スニオン岬にコースを少し変更してもらい岬の崖の上に立つポセイドン神殿を海から眺める。見晴らしの良い場所に神殿や劇場を古代ギリシャ人は建てている。

暫くしてアテネが近づくと今まで少なかった建物が立ち並びだす。

14 時にピレウスに近い場所の Zea マリーナに舫う。我々が以前は入ったところは普通の大きさのボートの繋留場所だったが今回は大型クルーザーが並んでいる繋留場所になっていた。

何時もは岸壁の通路側から見上げていた大型クルーザーだったが今回は上から見るようになった。

マリーナの近くを散策して戻る。

夕食はいつものように豪華なご馳走をフルコースで頂く。極楽の航海をさせて頂いた。屋上に上がり昨晚の静けさと違った大きなマリナーで大きな艇での別の海の良さを味わう。

キャプテンのステイブ、奥さん兼クルーのジュリアン、クルーの好青年ジョー、クルーの可愛い女性ケイトそしてコックのいつもにこやかな女性トニーにお礼をする。

9月24日（日）Paros にフェリーで戻る。快晴 順風

朝 5:40 に起きて出発の準備をする。今回はすっかりオーナー夫妻にお世話になった。

初めての豪華クルーザーでの航海だった。オーナーはこの航海のためにわざわざフロリダで購入した INDIGO を大西洋を横断させエーゲ海パロス島まで回航させた。たった一週間の航海のためにだ。最初は私のヨットにパロス島から 10 日ほど乗る予定だった。

皆さん起きてくれ見送りをしてくれた。6:30 にタクシーでピレウス港に行く。タクシー料金は前払いで支払われていた。

7:25 に定刻に大型フェリーが出港した。約 4 時間 15 分でパロス島に着く。

タクシーの窓から CAVOK 5 が浮いているのを見てほっとする。艇に着いてみるとポート側のスターン舳のロープが 2 か所結ばれている。切れたようだ。後で聞いてみると切れて隣の艇が舳直してくれたとの事だった。切れ口を見るとせん断でなく引っ張ってちぎれた感じだ。もしそうだとするとともやいロープとして役に立たない。今年夏ゴルフで買った新しいロープだったのだが。

近くに繫留してあるナウティキャッツに乗って居るオランダ人が話に来る。息子が松本で英語を教えているとの事で話が弾む。名刺を渡して来日の折りには連絡くれる様伝える。

艇の水洗いと洗濯をする。明日アマルゴス島に向け出港予定なので繫留料の清算をする。

一日 15€ の所 10€ にしてくれた。2 週間で 140€ だけだった。

水洗いの後海水浴場に行き日課の水泳をしてからシャワーを浴びる。

夕食は軽くご飯にウニ、ほぐし鮭、昆布、梅干で、最後に鯛茶漬を頂く。INDIGO でいつも大御馳走を頂いていたので久しぶりの軽い日本食だった。

9月25日（月）Paros~Amorgos(43NM) 晴れ 微風

朝食後 8:25 に舳を解き 2 週間滞在したパロスを後にする。

北西からの追手の風だが弱く機帆走にする。追い風の影響で 0.5 ノットプラスになる。

今日のレグは 360 度周りに島々が見える。殆どの島は緑がなく枯れた灌木と岩石の薄茶色だ。雨が夏には全く降らない。その中にも真っ白い壁の家の集落が山の上の方に点在している。良く生活できるなと思ってしまう。

ビニトップ（日よけテント）で日差しが遮られると半袖、半ズボンでは寒くフリースと長ズボンになる。

お昼は久しぶりにラーメンを食べる。

先日インディゴで寄ったばかりのアモルゴス等のカタポラの湾が見えてくる。インディゴでは錨泊したが我々は岸壁に船首からアンカーを打って檣付けする。隣の艇の人が舳いをとってくれた。

早速前のタベルナで悦子はビール、私はコーラで喉を潤おす。コーラにした訳はこの後泳ぐからだ。

アモルゴス島は 4 回目の訪問になるが華やかでないのと綺麗な海水浴場があるので好きなところだ。

マリーナ（と言っても岸壁を使用しているだけだ）の近くにある小さな海水浴場で泳ぐ。泳ぎは日課にしたい。

夕暮れが早くなり 7 時過ぎには日没になる。6 時過ぎより胡瓜と梅肉、クラッカーとタラモ、生ハム、オリーブでビールとワインを楽しんで、夕食にタイカレーを頂く。スパイシーで美味しかった。

静かな夜に音楽を聴いてリラックスして寝る。

9 月 26 日（火）Amorgos~Leros（53NM） 快晴 微風後順風

途中の小さな島 Levitha の入り江で錨泊したいところだったが明日から風が強くなる予報なので直接レロス島のマリーナを目指すことにする。

07:30 に馴染みになったアモルゴスの港に別れを告げる。午前中は西からの追手の微風で機帆走する。途中木造の 70 フィート位のきれいなニス塗のヨットが追い抜いていく。クルーを雇っている風でなく、自分たちで手入れの行き届いた綺麗なヨットを動かしているようで見えていて気持ちが良い。

レヴィタ島に近づいてスパゲッティポモドーロをビールで頂く。14 時手前から北風が 10 ノット近く吹き出し帆走を楽しむ。この風はレロス迄吹いてくれた。

レロス島のラッカの入り江の手前でセールを巻き機走に移る。VHF で呼んでも返事がないのでそのままマリーナに入るとスタッフがポンツォより合図してくれボートで繫留場所を案内してくれる。ここは 2012 年に艇を越冬させたところで、2015 年にも寄ったところで懐かしい。

オフィスに行くとスタッフの女性が覚えていてくれた。風の都合もあり 30 日まで停泊することにする。

手続きを終えてオフィスの下にあるバーに寄ろうとすると 2012 年にお世話になったこのオーナーが声を掛けてくれ再会を喜ぶ。コーヒーをご馳走になり藤木さんに頼まれているギリシャの典型的な漁船の様子についての情報をお願いする。

コックピットで夕暮れ時をのんびり過ごしてからシャワーを浴びる。日が暮れると長袖、長ズボンが欲しくなる季節になって来た。

夕食は買い出しをしていなかったのと残り物の整理で茹でソーセージとポテトサラダをご飯で簡単に済ます。

物音ひとつしないマリーナでゆっくり休む。



(ギリシャの漁船、レロス島にて)

9月27日(水) Leros 快晴 順風

朝食後パソコンで溜まっていた事務処理をした後、マリーナ内のチャンドラーに行きヤンマーの純正オイルとオイルフィルター2個、ついでにトイレの交換用の備品を購入する。

2013年春にここに来た時艇の床の絨毯を誂えたジュータン屋さんに絨毯のリニューアルをしたいと思いますが行くが、このジュータン屋さんは最近マリーナ内での商売は手数料を大分払わないとできないとの事だったのでペンディングにする。

マリーナが町から少し離れているのでレンタカーを借りたがフィアットのパンダだが一日25€嬉しくなり2日間借りた。

お昼艇でハムとポテトサラダのサンドイッチを頂いた後オイル交換をする。250時間が交換時期なのに300時間経過していた。オイルフィルターも一緒に交換する。

久しぶりのレロス島をドライブする。丘の上のヴェネチアの城、風車、そして入り江の綺麗な景色を再び味わう。

入り江で日課の海水浴をする。

夕食は以前行ったことのあるレストランに行こうと思っていたが、車で行くとお酒が飲めないでマリナー内のスキーパーズ・レストランで食べることにした。

チキンナゲットがお薦めだったのでそれとグreekサラダ、ビーフヒレのクリーム煮を赤ワインで食べる。それなりの料理だった。

今晚も静かな夜を過ごす。

9月28日(木) Leros 快晴 順風

やはり絨毯が少しくたびれてきているので今回は車に今まで使っていた絨毯を積んで絨毯屋さんに行く。同じ生地があるという事で明日9時までに作るとの事だったのでお願いする。

明日ギリシャを出国するのでポートオーソリティとパスポートコントロールする場所を確認がてら、島内をドライブする。2012年の冬を過ごしたところなので懐かしい。

明後日からトルコなのでスーパーでお酒の買いだめをする。トルコはお酒が高い。

お昼に冷やし中華をビールで頂く。日中は相変わらず暑く冷えたビールが美味しい。

1日からの来客に備えて布団干しをしたり艇の整備をしたりして過ごす。風が強く一つ布団が飛んでしまったようで失くしてしまった。周りも見ても見つからないので水没したようだった。

夕方泳ぎに行くが風が強く誰も泳いでいないので気が引けて泳がず帰る。

シャワーを浴びてから今夕もゆっくりした時間をコックピットで過ごす。

夕食は野菜サラダ、ポテトサラダに豚カツを赤ワインで頂く。美味しい豚であった。

このマリナーは年配の方が多くいつもとっても静かな夜になる。

9月29日(金) Leros 晴れ 順風

いよいよ明日トルコに渡る。朝一番でマリナー内にあるコインランドリーで洗濯機を回してから出国手続きに取り掛かる。先ずハーバーマスターの居る本港のコーストガードの建物に行く。何時もはハーバーマスターのところで艇の出国手続きしてから、ポリスに行きパスコントロールをしてもらうのだが、クルーリストがなかった為か、先にポリスに行って手続きをしてから来るようにとの事だった。お昼までレンタカーを借りていたので車でポリスのある港アギオス・マリナーのフェリー乗り場にあるパスコントロールと書いてあるポリスオフィスで手続きをする。クルーリストも作ってくれた。親切なポリスだった。これで24時間以内に出国すれば良いことになった。査証のシェンゲン協定にかかわる部分が心配だったが問題なくホットする。その足でハーバーマスターのところに行き艇の出国手続きを済ます。

絨毯を取りに行くの不具合があったので、不具合の絨毯をを持って行くと18時までに直すとの事だった。

お昼にポテトをハムでくるんだ料理とスパゲティの入ったオムレツをビールで頂く。

午後は、新しく購入したラバーボートの釣り上げようの牽引用アイの取り付けをする。

18時に絨毯を取りに行く。レンタカーはお昼に返したので自転車で行く。

明日の出港準備が終わってからホットしてビールをコックピットで飲む。美味しい。

何時もはシャワーを浴びてから食事だが今日はシャワーに入るのが遅れて先に食事になる。ブロッコリー、トマトのサラダ、チキンヒレの香草グリルを白ワインで頂く。オレングリソースのチキンヒレも美味しいが香草でグリルしたチキンヒレも美味しかった。

食後すっかり暗くなったマリーナ内を歩いてシャワールームに行き気持ち良くお湯を浴びる。

ギリシャ最後の静かな夜を過ごす。

9月30日(土) Leros~Bodrum(35NM) 快晴 微風~順風

久しぶりのトルコへ向け出港する。

北西からの追手の風だが10ノット未満の風で帆走では4ノットしか出ない。機帆走で行くが追手のお陰でエンジンの回転を1700回転ぐらいで6ノット強の速度が出る。

トルコは目と鼻の先なので表敬旗をトルコの国旗に代え、ついでに艇で入国するのでCIQを必要としますという表記のY旗も上げる。

トルコのトルトレイグが近づき、トルトグレイスを基地にしていしした稲次さんを思い出す。トルコではかつて稲次さんに大分お世話になった。稲次さんは一昨年80歳を機に16年間乗られていたグランドバンクス42の愛艇ハイドレンジア号を売却して陸に戻られた。

ボドルムが近づくと船の往来が多くなる。

本港に入りカスタム・ピアにアンカーを打っての檣付けをする。

パスコントロールに行くと言エージェントが必要かと聞いてきたので頼むことにした。

直ぐエージェントが来て手続きをしてくれるがエージェント代125€、書類代50€とかかる。自分でやる無駄な時間と手続きの不便さを考えると必要経費かなと諦める。

その後ガステーションに行って燃料を入れる136L入る。今回は2.6L/Hの燃費であった。

ボドラム・マリーナに連絡するとラバーボートでスタッフが来てくれ案内してもらう。大きな複雑なマリーナでは助かる。

明日から10日間一緒する大学、全日空と一緒にだった太田さんと奥さん、そして大学の同じゼミだった立石さんが乗艇する。今晚彼らはホテルに泊まっているので待ち合わせて18時に彼らのホテルに行く。

久しぶりにお元気な皆さんに再会する。その足で買い物をして艇に買い物の荷物を置いてから夕食に出かける。夕食の場所は2014年に稲次さんに連れて行っていただいた“Komodor”に行く。昔と一緒に盛況だった。前回行ったとき稲次さんに紹介して頂いた湾岸戦争の時トルコが邦人救出のため救援機を出してくれた時志願して救援機に乗ってくれたマノリアさんがオーナー夫人でいらしたが残念ながら違う店に代わったとの事で会え

なかった。

料理はメゼを数種類とり、メインにタコのグリル、カラマリフライそしてサーモンのグリルを食べる。いずれも新鮮で味付けも良く美味しかった。久しぶりに大学の同期と食卓を囲み楽しい晚餐会であった。

10月1日（日） Bodrum~Knidos 晴れ 順風

朝珍しくにわか雨が降るが9時には降りやむ。10時に太田夫妻と立石さんがホテルから艇に来る。荷物を整理して10時20分に舳を解く。風は西北西からでクロズドリーチからアビームになる。15ノット以上の風で2ポイントリーフしても7ノット以上のスピードを維持する。

半島を廻ってからセールをファールリングする。クニドスの港に入ると静かな海面になる。栈橋から係員がアンカーを打って槍付けするよう指示してくれた。14:20に栈橋に舳う。

早速一軒だけあるレストランに行き、遅くなった昼食を食べる。メゼ数種とエビのアヒージョ風料理、イカのフライをビールで食べる。メゼが美味しかった

食後太田夫妻と立石さんは港の脇にあるギリシャ円形劇場のある遺跡の見学に行く。

2013年の日誌から歴史を抜粋する「クニドスは歴史が古く紀元前9世紀からギリシャの都市国家として栄え、その後ローマ時代も貿易港して栄えたところだ。入り江を見下ろすように劇場があり、アゴラ、オデオンの遺跡が残っている。

そして此处はアフロディーテ像で有名で、紀元前4世紀の古代ギリシャの彫刻家プラクシテレスの史上初の等身大の女性裸像が置かれていた。現在は壊されて見ることは出来ないがローマ時代に複製が作られ現在この像がバチカン美術館に置かれているそうだ。」

至る所に紀元前の遺跡が残っている。

私は艇に戻り底まで透き通って見えるクリスタルな海で泳ぐ。風が強く海から出ると寒かったが海水は22度あり寒さを感じなかった。海から上がり直ぐホットシャワーを浴びる。

観光組も戻ってきた。久しぶりに将棋を太田さんとする。ここはWIFIがないのでインターネットが使えない。トルコ入国して直ぐだったのでインターネットキイとSIMカードを買う暇がなかった。

ウイスキーを飲みながらコックピットで皆さん談笑して過ごす。

10月2日（月） Knidos~Bozukkale(35NM) 快晴 順風 12~20ノット

北からの強い風が吹いている。インターネットが使えないので近くの艇で天気を見せてもらう。明日も同じような風なので今日出港することにする。

栈橋の舳いを外しアンカーを揚げる。風が強いのでジブ、メインとも3ポイントリーフにする。北北西の風で半島のブランケットに入り10ノット位になったり時折20ノット以上になったり安定しない。暫く機帆走して落ち着いたところで帆走に移る。平均15ノットの風を後ろから受けて快調に6~7ノットで走る。追手なので乗り心地は良い。途中ギリ

シャサイドのコス島、シミ島を右舷サイドに見て半島を回り込む。回り込むと直ぐボズカッレの入り江に入る。風は相変わらず 20 ノット近く吹いているが入り江の中のアリババのレストランの栈橋に近づくと半島のブランケットで弱まり楽に栈橋に槍着け出来た。

いつ来てもこの景観とターコイズブルーの海は素晴らしい。

4 人は岬の上に立つ城塞跡に登る。ここも紀元前 10 世紀からの歴史がありギリシャ時代は商業港、軍港として栄えた。そしてこの城跡はその時代から引き継がれヴェネチア時代まで役目を果たしたそうだ。

その後皆さんで泳ぐ。いわしの稚魚が数万匹と泳いでいてその中を泳ぐ感じで幻想的だった。

シャワーを浴びてコックピットでいつの様に一杯やってから、アリババレストランに行く。既にラムのグリルはオーダーしておいた。メゼを数種類、カラマリフライ、ミートボールを赤ワインで食べる。全般的に良い味だった。5 人分で 450TL 約 14000 円だった。繋留料込なので安い。

疲れもあり艇に戻って音楽を聴いてから 10 時過ぎに皆さん眠りにつく。

10 月 3 日 (火) Bozukkale~Marmaris(22NM) 快晴 順風

今日も雲一つない快晴だ。朝食後ひと泳ぎする。綺麗な海なので泳がないのがもったいない気がする。

10:00 に舳いを解く。北北西の追手の 15 ノット前後の風を受ける。最初セールをリーフしておいたが風もこれ以上強くなりそうもないので岬を超えてところでフルーセールにする。波もなく後ろからの心地よい風でセーリングを満喫する。お昼はオムレツをビールで頂く。冷えたビールが美味しい。

ほぼ安定した風がマリマリスまで続き最後までセーリングを楽しんだ。

Netsel Marmaris Marina に近づき VHF で呼び出すとラバーボートが迎えに来ていた。

15:20 に舳う。手続きをした後、町に出かける。バザールで買いものをした後、私は iPad の SIM カードを買いに行く。電話を使って SIM をアクティベートしなければならないのでボーダフォンのお店でやってもらうよう頼む。1 時間後にアクティブになるという事で 1 時間後又来ることにした。そして明日観光船でダルヤン観光に行く予定なので予約をする。

食事は伝統的なトルコ料理を食べることにしてウオターフロントにずらりと軒を並べているレストランからそれらしい店を選んで入る。メゼ、ムサカ、ミートボール、ケバブの盛り合わせを赤ワインで食べる。量が多く来たが味は美味しかった。デザートはバクラバとトルココーヒーにした。

帰りにマリーナに隣接したちょっとおしゃれなショッピングアーケードで気に入ったシャツを其々皆さん購入する。

艇に戻ったのが 23 時過ぎになり私と洋子さんだけがシャワーを浴び後の 3 人はそのまま

寝床に着く。

10月4日（水）Marmaris 快晴 順風

今日もぐっすり寝てしまう。朝食後 09:30 発のダルヤン観光船に乗りに行く。お昼も観光船で用意してあり鯖のグリルを食べるが結構おいしい鯖だった。観光船は大きな船で 20NM 先のウミガメの産地のダラヤンの入り口に行き、そこで小さな船に言語別に振り分けて乗る。

我々は英語グループに乗る。湿地帯の中の細い水路をグニャグニャと曲がりながら進む。

注文しておいたこの辺りの名物ブルークラブが届いて食べるが身は少ないが味は美味しかった。ブルークラブはカメの好物だそうだ。

途中から水路の右側にレストランとホテルが並びだす。そして反対側に王様のリキヤ式岩窟墓が崖の中腹に見えてくる。リキヤは紀元前 5 世紀からこの地方で栄えた文明だ。

岩窟墓を見ながら船は上流に進みダルマンの泥温泉で停泊する。皆さん泥温泉に入り体中泥を塗り乾かしてから泥を落とす。温泉もあった。

その後観光船のところに戻りマリマリスに戻る。到着は 17 時になっていた。丸一日のんびりした日を過ごした。

下船後バザールによってから今日もウオターフロントの魚の美味しそうなレストランを探して食べる。メゼを数種とカラマリイニング、魚はシーバスとタイの一種のシーブリームのグリルを頼む。メゼも魚もすべて美味しく、店のマスターも非常に感じが良かった。店の名前は Liman というところで次回も寄りたいところだ。白ワインを 2 本、デザートにチャイとバクラバを食べて 5 人で 540 トルコリラ（約 15000 円）だった。

艇に戻ると 23 時過ぎになっていた。シャワーを浴びて寝る。

10月5日（木）Marmaris～Ciftlik(12NM) 快晴 順風

今日の目的地は近いのでお昼出港することにする。朝食後 4 人は町に買い物に行く。私は別のマリーナ Yacht Marina に年間契約について聞きに行くが No Place で簡単に断られる。どうも相性が悪いマリーナのようだ。

お昼過ぎに買い物グループが帰って来て 12:30 に舫いを解く。

シフトリックはレストラン棧橋がある素敵な入り江の泊地だ。前もって電話で予約してあった Rahet Baba の棧橋に 15:20 に舫う。

砂浜のビーチベッドでのんびり過ごす。海水が綺麗なので泳ぐ。

夕食はここのレストランでメゼ、フライドカラマリ、レッドムレットとグルッパーのグリルを白ワインで食べる。メゼはどこでも美味しい。焼き魚も日本の魚にはかなわないがそれなりに美味しかった。

艇に戻り囲碁の名人太田さんに囲碁の初歩を教えてもらう。

静かな入り江の中で満月に照らされてベッドに入る。



(トルコ・シフトリックのレストラン栈橋)

10月6日(金) Ciftlik〜Fethiye (45NM) 快晴 微風

明日から天気が崩れるので安全かつ大きな町のあるフェティエのマリーナに行くことにする。こちらも夏の終わるかヨーロッパ大陸にある低気圧から延びている前線の尻尾が通過する予報だ。

今日は未だ静かな海なので今日中に移動を考えた。

08:00に綺麗な入り江チフトリックを後にする。風は後ろからだが弱く機帆走する。

お昼に久しぶりにラーメンを頂く。

今日入る予定のヨットクラシックマリーナはホテルの栈橋でチャターヨットの会社サンセール基地にもなっている。アットホーム的なマリーナでお気に入りだが週末はチャターヨットが戻ってくるので結構いっぱいになるので途中電話で予約を入れる。幸い予約が取れた。

15:40に栈橋に舫をとる。ここの従業員が覚えていてくれ歓迎してくれた。

未だ夏でにぎやかである。

夕食はここのレストランで取る。ここはレストランで食事すると繫留料は15€で食事しないと70€取られるので食事をした方が得をするようになっている。

皆さん肉が食べたくなりトマトスープの後ビーフヒレスステーキ、Tボーンステーキを其々

赤ワインで味わう。まあまあの味であった。

夜は一杯飲みながら太田さんに囲碁を教授してもらう。

寝た後こちらの深夜に長女から電話がある。悦子のお母さんが7月に骨折をして病院に入院した後誤嚥をして調子を崩していたが8月に悦子が帰国した折は元気だったのが急変したとの事だ。その後日本時間の8:25に死亡が確認されたとの電話がある。

早速悦子が明日帰国できるよう航空券の手配をする。急なことで驚く。

10月7日(土) Fethiye 曇り時々雨

今日は急遽悦子が帰国する。朝食後フェティエの町に出て買い物をした後、魚市場に行く。ここは市場で魚を買って隣のレストランで料理してくれるようになっている。生きのいいプローン、イカとサーディンを買って料理してもらう。但し料理代が魚代と一緒に取られたのでちょっと不満だった。味は新鮮で美味しく食べる。

艇に戻って悦子は帰国の荷造りをして17時に頼んでおいたタクシーでダルマン空港に向かう。母を亡くしてさぞかしい寂しい旅路になるかと思う。

我々は今晚もここのレストランで食事する。

チキンスープ、タコのカルパッチョの後スパゲティ・ナポリタンを食べる。スパゲティは少し柔らかくイタリアには遥かにかなわない味だった。

艇に戻りオンザロックを飲んだ後今晚も太田さんに囲碁を教えてもらう。

10月8日(日) Fethiye 曇り時々雨

9時にレンタカーを借りて世界遺産であるクサントス、レトーン、パタラ観光に行く。ガービンのカーナビを頼りにしていったら山中に入り砂利道を峠超えする羽目になる。途中山中で前が見えないほどの豪雨に会う。

クサントスの手前で雨もやみ青空が見えてくる。遺跡を見る前にお昼を食べる。小さな地元の店でジャイロのサンドウィッチ版を食べる。家族経営の店で主人、奥さんそして10歳ぐらいのお嬢さんがとっても親切に対応してくれた。食事のお値段も驚くほど安かった。

クサントスはこの辺りで紀元前10世紀より栄えた古代リキヤの首都であった処だ。その後アケメネス朝軍の攻撃を受けたりしたがアレキサンダー大王の支配下に入り繁栄した。その後ローマの支配下、そしてビザンチン時代と続いた都市であった。

ここにも円形劇場が残っている。

次のレトーン遺跡はアルテミスとアポロンを生んだ女神レトの神殿が残っている。ここにもゼウスと妻ヘレとの神話が伝わる。

近くのパタラ遺跡に寄るがここにも円形劇場、岩窟墓や町の様子が分かる遺跡が残されている。

リキヤ文明を堪能してからパタラ遺跡の直ぐ近くにある砂浜が18KM続くというウミガメの産卵地でもあるパタラビーチに寄りお茶を飲んでから艇に戻る。

夕食はマリーナでサーモンのスープ、野菜サラダ、ガーリックプラムのリゾット、ビーフストロガノフ、ビーフキャセロール、スズキのグリルを其々食べる。白ワイン、デザートにコーヒー飲んで4人で430TL（約13000円）だった。繫留料に若干プラスした位だ。何時もの様に太田さんに囲碁を教わって眠りにつく。

10月9日（月）Fethiye セーリング 快晴 順風

朝起きると昨日とすっかり変わった天気で青空だ。

お昼にシングルハンドで世界一周している増田さんが知り合いのトルコ在中の日本人と艇を訪ねてくることになっているので彼らが来たら艇を出してお昼を食べながらセーリングすることにした。それまでのんびり過ごすことにする。

13時前に増田さんがフェティエでヨットのチャーター業をやっているグッチさんと奥さんの日本人のユカリさん、そしてそのお友達の幸世さんと一緒に来る。

13時に艇を出し、静かな海面で昼食をとる。

洋子さんが本格的なカレーと野菜サラダを作ってくれてご馳走になる。又ゲストの方がトルコ料理を持ってきた。

豪華な昼食が終わった後、良い風になったのでセーリングを楽しむ。立石さんが舵を気持ち良さそうに握っていた。17時にマリーナに戻る。

戻ってからユカリさんのご主人のグッチさんと太田さんと囲碁を始める。グッチさんは学生時代から囲碁をやっているようで太田さん曰くかなり上手との事だった。4目置いての勝負だったが太田さんが2目負けてしまった。彼は碁石と碁盤をちゃんと持ってきていた。

多分日本人と勝負できると思って楽しみに持ってきたと思う。

帰り際これからケメルまで一人で回航する話をしたら幸世さんが手伝ってくれることになった。助かる。

夕食は今晚もマリーナだ。ここはホテルのマリーナでレストラン、プール、シャワー等しっかり施設が整っていて景観も良く心地よい。

前にも書いたが繫留料のシステムは面白く、ホテルのレストランで夕食を食べると一日1foot当たり1.5トルコリラで、夕食を食べないと一日1foot当たり1.5ユーロというシステムになっている。CAVOK5は45footあるので夕食食べると一日68トルコリラ（約2000円）になり、食べないと68ユーロ（約9000円）になるシステムをとっている。従ってこのマリーナのレストランで食べることになる。でも中々海際のテラスにある感じ良いレストランで味も良いので好都合でもあった。

夕食はお昼にご馳走を食べてお腹が余り空いていないので、今日のスープと其々スパゲティ、ラムチョップで済ます。

明日皆さん帰国するので太田さんは最後の囲碁の指導をしてくれた。

明日早い立石さんは早々に休む。

10月10日(火) Fethite 快晴 微風

朝 6 時に立石さんはタクシーでダルマン空港に向かう。彼は米国籍も持っていて我々と逆回りで大西洋を横断してロスアンジェルスに戻る。9 時に太田夫婦が同じくタクシーで空港に向かう。

洋子さんには悦子帰国後すべて悦子の代わりをやっていただき助かったのと同時に大変感謝している。

シーツをクリーニングに出した後、今日は火曜市があるとサチヨさんに教えてもらったので行く。大変大きな市で果物、野菜そして洋服との雑貨がある市で 100m 位の距離に露天商が並びそれが 5 本ぐらいある規模だった。

コピーだが衣装が安く結構買ってしまった。果物、野菜も仕入れ、帰りに魚市場に行き芝エビをアヒージョにと買って帰る。

帰ってからお昼に洋子さんが作っておいてくれたカレーを食べる。

細々した作業をした後プールサイドで休む。

夕食はマリーナでスープ、サーモンのグリルを食べる。店の人とも親しくなったので一人でいる私に色々声を掛けてくれた。

10月11日(水) Fethiye~Karacaoeren(15NM) 快晴 微風

10 時に回航の手伝いをしてくれる幸世さんが来るのを待つ。マリーナの水道の出が悪く給水に時間が掛かる。聞いてみると不具合があり出が悪いとの事だった。

繫留料を払おうとするといらぬとの事だった。ルールが違って食事すると無料になったようだ。

サチヨさんが来たので水タンクの満タンを諦めて出港することにする。

今日は遅い出港になったのでユカリさんから教わったフェティエの湾外にある 15 NM 先の小さな入り江カラジャレンに行くことにする。

風もなく機走になる。教わった暗礁地区を避けてカラジャレンに入ると一軒だけあるレストランのボートが来てレストランのブイを取ってくれる。そして船尾を岩場に繋でくれた。

ここもレストランで食事するとブイ使用料は無料だ。

底まで澄んで見える綺麗な海で早速泳ぐ。

夕方レストランのボートが迎えに来てくれ食事する。幸世さんに料理を選んでもらいメゼとラムチョップ、ラムのキャセロールを食べる。ここは陸上での交通がないところだが釜で料理を調理している。自前のパンも美味しく、ラムも柔らかく美味しく食べた。帰りも送ってもらい静かな海でぐっすり休む。

10月12日(木) Karacaoeren~Yesilkoy (30NM) 快晴 微風

朝 7 時に起きる。出港予定を 7 時にしていたのでレストランの人を電話で呼んで岩壁に

舫ってある舫いを取るようお願いしたかったが電話に出てこないのでも自ら泳いで取りに行く。7:20にお湯だけ沸かした後出港する。朝食は出港後コーヒー、パン、チーズ、フルーツで済ます。

今日も早い時間は風が弱く機走する。やっと11時過ぎから上りの風だが10ノット前後吹き出したので帆走に移る。途中タックが必要だったがセーリングは気持ち良い。

タック、タックになったので時間が掛かったがカルカンの向かい側のイエシルコイの入江に14時に入る。観光船が4, 5隻いた。前回来た時は5~6mの深さの砂底にアンカーを効かせたのだが今回3回ほど打ったがすべて海草につかまりアンカーが効かず4回目にやっと効いた。遅いお昼を幸世さんが持ってきてくれたトルコ料理で頂く。

その後泳いでアンカーの効きを見に行く。しっかり砂地に食い込んでいた。40mチェーンを伸ばして錨泊に備えた。

泳いでいると観光船からチャイを飲まないかと誘いを受けたのでお邪魔する。

4人ほどのお客さんでカルカンから来たそうで日本の国旗を見て呼んでくれたそうだ。

暫くCAVOK5の航海の話をしてから艇に戻る。カルカンに来て困ったことがあればいつでも相談してくれとの事だった。

そのうちすべての観光船が帰りCAVOK5だけの錨泊になった、

夕食はご飯を炊いて幸世さんの持ってきてくれた納豆、豆腐とみそ汁、雲丹、卵焼き、トマトと胡瓜等で頂く。

日本食は胃が落ち着く感じた。

この入り江の周辺は家もなく明かりが全くなく星が良く見える。満天の星を楽しんで早々に眠りにつく。

10月13日(金) Yesilkoy~Kalekoy (30NM) 快晴 微風

ここでの錨泊は夜にモーターボートが一艇来ただけで夏の終わりを告げる様だった。07:30にアンカーを揚げてケコバのカレコイに向かう。連日同じような天候で天気晴朗なれど風無しの状態だ。

この辺りからアンタリア迄紀元前から栄えたリキヤの勢力の範囲になる。

数日前に車で観光したパタラビーチを沖から見ながらケコバの海峡に入りお馴染みのカレコイに12:40アロングサイドで舫う。ここには3軒ほどの栈橋を持ったレストランがあるが前回停泊したRomaレストランの栈橋に着ける。



(カレイコのレストラン桟橋での CAVOC 5)

到着後お昼にお蕎麦を食べる。

午後は村の直ぐ上にそびえているヴェネチアンキャッスルに登る。ここからのケコバの海峡の景色は見事だ。暫く城壁より景色を楽しむが見ていて飽きがないほど素晴らしい景観だった。



(ケコバロード ケコバ島と本土との海峡)

シャワーの前に日課の海水浴をする。

夕方になってカタマランが入ってくるのでという事で少し栈橋の奥にレストランの人が艇を移動さす。

カタマランが後ろに入ると我々が出られなくなる。明日我々早く出るのではといったところ、カタマランが来てから CAVOK5 を移動させてカタマランを前に入れてその後に着けるかアンカーを打って栈橋の先端に着ける様言われた。カタマランは日没後暗くなって来るとの事でそんな時間の移動は嫌なのでカタマランにアンカーを打つようにしたらよいのではといったところそれは出来ないと言う。我々にアンカーを打てばと云っという彼らに云えないのは理屈に合わないので何でと聞くと、あなたの艇は 2 名のお客でカタマランは多いとの事でカタマランを優先したいとの事だった。彼らは我々にお願いするわけでもなく理由も納得いかないし又一方的だったの断った。

カタマランは 8 時頃暗い中到着して我々の後ろに舫う。頭にきてこのレストランで食事したくなかったが栈橋を使っていたので仕方なく食事する。カタマランの人たちに食事の時我々は明朝 8 時前に出るのでぶつからないよう手伝ってもらうようお願いする。彼らは 10 時頃出港予定していたようだが心地よく引き受けてくれた。

非常識なレストランの対応にトルコのイメージがダウンしてしまった。

10 月 14 日（金）Kalekoy~Kemer（55NM）快晴 微風後順風



（10 月中旬のケメルの海水浴場）

朝 6 : 30 に起きて出港の準備をする。狭いところを曲がって出るので機走では出られないので反対側の栈橋からロープを取ったりして手動で栈橋から出せる準備をしているとカタマランの人たちが起きてきて我々が先に出ると言ってくれた。彼らに感謝する。彼らが出た後我々はスムーズに出られた。お礼の挨拶をするとこんなことは当たり前という感じで手を振ってくれた。

レストランの対応とは大違いで気分が明るくなった。

ケコバ島の海中に沈んだ遺跡の一部を見ながらケコバロードと言われるケコバ島と本土との静かな海峡を、朝日を浴びながら進む。

アンタリアの湾に入る手前の岬を廻ったあたりから風が南に回り 15 ノット以上吹き出し帆走に移り心地良いセーリングに移る。

約 10 時間の航海で懐かしのケメルに 17 : 20 舫う。知り合いのビュレントが来てくれ今回回航の手伝いをしてくれた幸世さんと一緒に彼に夕食に連れて行ってもらう。

幸世さんはここからバスでアンタリア迄出て高速バスでフェティエに帰る。

今年は航海終了寸前に悦子の母の逝去があったが幸世さんにも手伝ってもらい航海は無事終わりほっとした。